

トヨタ自動車と協力 水素の製造装置開発へ

富山 2020.12.10 19:03



家庭ごみに含まれるアルミから水素を作る装置を開発した高岡市のベンチャー企業が、自動車メーカーの協力で、アルミ合金のけずり粉をもとに水素を安定して作り続ける装置を作ることになりました。低炭素社会の実現に貢献するものと期待されています。

装置を手がけるのは、高岡市の「アルハイテック」です。

これまでにアルミ缶やアルミ箔といった家庭ごみを原料に、水素を生成する装置を開発してきました。

そして今回、トヨタ自動車の協力を得て、自動車製造の際に生じるアルミ合金のけずり粉などをもとに水素を作り出す装置を開発します。

水素は、純アルミをもとに作られるのが一般的ですが、アルハイテックが目指すのは電源を使わず、独自の特殊アルカリ溶液をもとにアルミ合金から安定的に水素を作り出す装置です。

アルハイテック 水木伸明社長

「従来ですね、安定的に水素が出ないというところが非効率的でした。水素が安定的に製造できると」

政府は今年3月、国内のガソリン車の販売を2030年代半ばを目標に無くし、新車をすべてハイブリッド車や燃料電池車などにする方向で調整に入っています。

アルハイテック の水木伸明社長

「ガソリン車の新車の販売がですね、2030年から2040年にかけて禁止されていくわけでございます。この技術は、原油の代わりになると私は思っています。ひらめきから15年も経ってしまったわけですけども、ようやくですね、トヨタさんに非常に感謝しています。一緒に、グローバルな展開をしていきたいなと思います」

アルミ水素の製造装置は、大型が1台5000万円から数億円、小型が500万円からなる見込みで、アルハイテックは来年度から販売する計画です。